

やしゃがいけ 夜叉ヶ池ヤシャゲンゴロウ希少個体群保護林

夜叉ヶ池（標高1,099m）は周囲230mほどの小さな池で、登山口から自然林の中を2時間半ほど登った先に現れる山上の別天地。この清らかな池は流入・流出河川がなく、雨水と周囲のブナ林への湧水とのバランスで成り立っています。また、保護名にもなっている「ヤシャゲンゴロウ」は、全世界でこの夜叉ヶ池のみに生息する貴重な昆虫です。



ブナ林に囲まれた夜叉ヶ池。池の周囲には木道が整備されているので、マナーを守って散策を楽しみたい。



ヤシャゲンゴロウは体長約15mm。国内希少野生動植物種に指定され保護されている。

みくにやま 三国山湿原植物希少個体群保護林

滋賀・福井県境に位置する三国山（876m）の南東に広がる高層湿原が主体の保護林。湿原の周囲にはブナやスギの天然林が生育し、シーズンには、湿原に延びる木道上からここを分布の西限とするキンコウカの群落を間近に楽しむことができます。晴れて空気の澄んだ日には、湿原付近の登山道上から遠く琵琶湖まで見渡すことができます。



木道上からキンコウカ越しに望むマキノ町の山並。



ユリ科キンコウカ属の多年草で本州の亜高山帯に多く分布し、6月下旬から7月中旬にかけて開花する。

だいひざん 大悲山モミ希少個体群保護林

懸崖造りの本堂が有名な峰定寺の南側山域の尾根伝いに設定された保護林。この尾根はちしよ尾根古道と呼ばれ、歩道と階段が整備されています。モミ・ヒノキ・スギ・ツガなどの大径の針葉樹を主体とする針広混交林で、保護林のすぐ近くには日本一の樹高（62.3m）を誇る「花背の三本杉」が鎮座しています。



保護林の主要樹種であるモミの大木。すらりと天に向かって伸びる通直な樹形が美しい。



照葉樹林帯からブナ帯への移行帯である中間温帯林がまとまって残る貴重な保護林。

こんごうさん 金剛山ブナ希少個体群保護林

金剛山（1,125m）は奈良県と大阪府の境に連なる金剛生駒連峰の主峰で、四季を通じて多くの登山客に親しまれています。保護林に設定されているのは、山頂西側の転法輪寺や葛木神社周辺の社寺林に連なる自然林で、大阪近郊では希少なブナの天然林。金剛山有数のお花畑が見られる人気の登山コースにもなっています。



金剛山のブナ林は大阪近郊では最大の規模で、直径1mを超える大木に出会えることも。



谷沿いの登山道では、シーズンの5月頃には一面に広がるニリンソウのお花畑が目を楽しませてくれる。

こうやさん 高野山コウヤマキ希少個体群保護林

大正7年に設定された管内最古クラスの保護林で、希少なコウヤマキを主体とする常緑針葉樹林。コウヤマキの名前はこの種が高野山に多いことが由来とされています。材は耐久性・耐水性が高く、古くから伐採が制限され大切に育てられてきた「高野六木（他にヒノキ・スギ・アカマツ・モミ・ツガ）」の一つとしても知られています。



1属1種の日本固有種で生きた化石とも呼ばれるコウヤマキ。面積約30haの純林は、国内最大規模とされる。



幹周6m・樹高52mの巨大なスギが保護林内にあり、シンボルの一つになっている。

さんべさん 三瓶山ブナ・ミズナラ希少個体群保護林

島根県中央部に位置する三瓶山は火山活動で形成された独立峰で、男三瓶山（1,126m）を最高峰とする6つの峰で構成されています。すそ野に広がる草地景観は、かつて牛の放牧が盛んな時代には山頂付近まで及びました。また、カルデラの内部や、保護林に設定されている北斜面にはブナなどの貴重な自然林が残り、国の天然記念物にも指定されています。



室の内池は火口湖で、周囲にはミズナラを主体とする天然林が広がり、希少なカシワ林も見られる。



保護林の標高800mを超える区域にはブナ林が残り、それより下はシデ林が主体となっている。

てんのうやま 天王山ヒメボタル希少個体群保護林

神社の境内地を取り囲むヒノキなどの針葉樹が植えられた保護林にヒメボタル（通称：金ボタル）が生息しています。岡山県の天然記念物に指定されている「金ボタル生息地」は境内地の方で、保護林には境内地を守る緩衝帯の役割などが求められています。貴重な生息地を次世代に引き継ぐため、地元の保護団体や小学生らが保護活動を行っています。



小型の陸生ホタルで、7月頃の約10日間という短い期間に、雄だけが飛翔し、短い明滅を繰り返しながら乱舞する。



ホタルの生息には適度に下層植生が発達した森林が良いとされ、森林整備を実施した。

かがみね 釜ヶ峰アベマキ・アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

全国的にも珍しいアベマキの純林で、樹齢140年を超えるアベマキの巨木が林立する様は圧巻。保護林のある広島県庄原市口和町の一帯では、かつて、コルクの原料になるアベマキ樹皮の生産が盛んでした。この保護林は優良な種子を採取するための母樹林として戦前から守られ、コルク産業の歴史の生き証人として現在まで保存されています。



近年はナラ枯れによってアベマキが枯れているため、シートを巻いて被害の予防に取り組んでいる。



毎年、地元の小学生を対象に森林教室を開き、学習の場としても役立てられている。